

- 1 参加大会等名または視察研修を行った館名
参加大会名：第109回全国図書館大会 岩手大会（4年ぶりの対面形式）
施設研修：岩手県立図書館
- 2 期日・期間
令和5年11月16日(木)～11月17日(金)
- 3 派遣者の所属・氏名
垂水市立図書館 福島 康彦
- 4 研修の目的
全国の図書館関係者が一堂に会し、連携を深め、図書館が発揮すべき力について共に考える
- 5 研修内容
 - 1日目（11/16）全体会（講演）

「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の夜」講師 本間 希樹 氏

 - ・図書館は人類が長年かけて蓄積した知識の宝庫（利用者が引き出さなければ価値がない）
 - ・デジタル社会におけるアナログの意義を知る場として図書館は重要
実際のもの（ひと）との出会い、五感による知識の体得、予想外の発見

※全体会終了後に、岩手県立図書館を視察

 - ・1922年開館、2006年に現在の場所にて開館（指定管理者制度導入）
 - ・本棚が低く、館内を見通せる構造
 - ・各種イベント開催はもちろん、SNSを活用した広報にも注力している
 - 2日目（11/17）分科会

「第4分科会 児童サービス(1) 子どもと本のよい出会いを」
基調講演 張替 恵子（公益社団法人 東京子ども図書館理事長）

 - ・図書館業務で一番大事なことは、本を選ぶこと
 - ・図書館員が専門職として、認められる日が来ることを願う

事例報告 護得久 えみ子（公益社団法人 東京子ども図書館）

 - ・子どもに手渡す本を丁寧に選書している→蔵書目録の作成につながる
 - ・子どもと本をつなぐ工夫（その場で読み聞かせをする等、密に接する）

事例報告 金久 由美子（久慈市立図書館司書）

 - ・情報と人をつなげ、人と人をつなげ、地域をつなげる図書館の実現
- 6 所見
今大会の講演、分科会への参加及び岩手県立図書館の視察を踏まえ、図書館に関わる職員として。利用者に本の魅力を十分に伝え、読書に誘うことができているかを考えさせる2日間でした。また、図書館は学ぶための資料提供をするだけでなく、地域をつなげ新しい学びの場所を創出する役割もあることを再認識できました。
結びに、このような機会を作っていただきましたことに、感謝申し上げます。